保育における「音楽表現活動」とピアノ演奏

吉　原　達　也

The use of piano performances and musical expression activities in childcare practice

by
Tatsuya Yoshihara

要旨

本稿は、平成30年４月１日より施行された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に対応した本学の新教育課程の実施に向け、これまでの音楽表現活動に関わる科目の内容と取り組みを整理し、分析したものである。保育学科入学生のうち、ほぼ半数がピアノ演奏経験１年未満の初心者という現状の中で、特にピアノ演奏の初心者に対する、グレード制によるピアノ実技指導の課題曲の選定、指導方法、さらに弾き歌い実技指導の習熟度別伴奏譜による課題曲の指導方法の２つに重点を置き、問題点と改善方法を探ることで新教育課程の実施に向けた課題を把握することが出来た。

キーワード：音楽表現活動、弾き歌い伴奏、ピアノ初心者指導

1. はじめに

幼稚園教育要領では領域「表現」について「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている[1)]。本稿はこの領域における

「ねらい」
(2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
「内容」
(4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
(6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

を達成するために設定している音楽科目について、本学の取り組みを整理したものである。

幼稚園等においては多様な音楽表現活動が行われており、その場での指導者のピアノ演奏は大きな役割を果たす。しかしながら本学保育学科ではおよそ半数の入学生がピアノ演奏経験1年未満の初心者であるため、指導にあたっては細やかな工夫が必要である。

ここでは特に弾き歌いとピアノ伴奏技術に焦点化して、個々の技量に応じた〈グレード制によるピアノ実技指導〉を中心に、短期大学課程の2年間で保育現場に通用する技術を身につけるための支援の方法を報告し、今後の課題を考察する。

2. 幼稚園での主な音楽表現活動

本学付属幼稚園では音楽表現活動として「手遊び」「歌遊び」「季節の歌」「リトミック」「オペレッタ」「器楽合奏」に取り組んでいる。多様な活動を通して、幼児が音楽に親しみ、楽しさを味わう上で、ピアノ演奏（伴奏）は極めて重要であるが、本学の入学生の内ほぼ半数がピアノ経験1年未満の初心者である。こうした学生のために、本学では入学予定者や、付属高等学校生徒に対する「入学前のピアノ実技レッスン」を開いてピアノ初心者の不安感を解消することに努め、一定の成果を挙げている。

このガイダンスを端緒として、入学後は2年間でピアノ演奏の基礎技術を身につけ、さらに保育現場で即戦力になるための弾き歌いの技術を習得するための支援に重点を置いている。

そこで本学の教育課程の音楽関係科目について内容を整理するとともに、ピアノ初心者に対する実技指導、弾き歌い指導を考察し、平成31年度から実施される新教育課程への移行に備えていきたい。

3. 本学の教育課程における音楽科目

3・1　全体構成

平成30年度の保育学科における、音楽に関する科目と内容は以下の通りである（**表1**）。

表１　音楽に関する科目一覧表

科　目		内　容	幼稚園教免	保育士資格
教科に関する科目	音楽基礎演習	読譜に必要な音名、音階、音程、和音、記号、楽語に関する基礎知識を学び、主要三和音、コード譜による伴奏法を身につける。	必修	必修
	音楽Ⅰ	バイエル・ピアノ教則本等を用いピアノ演奏の基礎技術を身につける。8分音符を用いるバイエル46番以上修了を目標とする	必修	必修
	音楽Ⅱ	保育現場で即戦力となる弾き歌いの基礎技術を身につける。10月の教育実習に向け、生活の歌、秋・冬の歌に取り組む。	必修	必修
	音楽Ⅲ	バイエル・ピアノ教則本等を用いピアノ演奏の技術、表現力を高める。ヘ長調を用いるバイエル96番以上修了を目標とする	必修	
	音楽Ⅳ	保育現場で即戦力となる弾き歌いの技術、表現力を高める。6月の教育実習、8、9月の保育実習に向け、6月の歌、夏の歌に取り組む。	必修	
	音楽Ⅴ	音楽Ⅰ～Ⅳで身につけたピアノ演奏技術、弾き歌い技術をさらに深め、就職試験、現場での実践に備える。		
教職に関する科目	音楽表現Ⅰ	幼児期の音楽的発達段階を認識し、リトミック、リズム運動、歌唱や器楽演奏の基礎を体感し、身につける。	必修	必修
	音楽表現Ⅱ	身体あそび、手あそび、指あそび、リズムあそび、リトミック、歌唱等を体現し、実習に即対応できるよう指導方法を身につける。	選択	選択

3・2　グレード制によるピアノ実技指導

１年生前期の「音楽Ⅰ」（1単位・幼稚園教諭、保育士必修）、そして１年生後期の「音楽Ⅲ」（1単位・幼稚園教諭必修）においてピアノ演奏の基礎レッスンを行っており、指定教科書は「標準バイエル・ピアノ教則本」、「ブルクミュラー25の練習曲」、「ソナチネアルバムⅠ」である[2)、3)、4)]。

学生一人ひとりのピアノ演奏技術（経験）に合わせた指導を行うために、（**表2**）のようなグレード制をとっている。学生は自身の判断により「グレードⅠ」から「グレードⅤ」のいずれかから開始し、前期・後期それぞれで１つ以上のグレードを修了した者に単位を認定している。すなわちピアノ初心者は前期「音楽Ⅰ」で「グレードⅠ」を、後期「音楽Ⅲ」で「グレードⅡ」の課題を全て修了させ、ピアノ経験者は前期に「グレードⅡ」以上の自分の実力に合ったグレードから開始し、後期は１つ上のグレードに進むことになる。

このようなグレード制にすることで経験値に合わせた指導をすることができ、学生にとっては進度がわかり易く、目標が立て易いというメリットがある。15回の授業内での修了が難しい学生に対しては個別の補習も実施している。

表 2 「音楽Ⅰ」「音楽Ⅲ」グレード別課題曲一覧

<table>
<tr><th></th><th>グレードⅠ</th><th>グレードⅡ</th><th>グレードⅢ</th><th>グレードⅣ</th><th>グレードⅤ</th></tr>
<tr><td>1</td><td>「バイエル」
No.7</td><td>「バイエル」
No.48</td><td>「バイエル」
No.98</td><td rowspan="4">「ブルクミュラー 25 の練習曲」
No.12 ～ No.25
から 2 曲以上</td><td rowspan="4">「ソナチネアルバムⅠ」から任意の曲、あるいはソナタ程度以上の任意の曲 1 曲以上</td></tr>
<tr><td>2</td><td>No.11</td><td>No.49</td><td>No.100</td></tr>
<tr><td>3</td><td>No.12</td><td>No.51</td><td>No.102</td></tr>
<tr><td>4</td><td>No.13</td><td>No.52</td><td>No.104</td></tr>
<tr><td>5</td><td>No.15</td><td>No.55</td><td rowspan="13">「ブルクミュラー 25 の練習曲」
No.1 ～ No.11
から 1 曲以上
※ブルクミュラーから始める場合は 2 曲以上</td></tr>
<tr><td>6</td><td>No.18</td><td>ハ長調音階</td></tr>
<tr><td>7</td><td>No.21</td><td>No.65</td></tr>
<tr><td>8</td><td>No.23</td><td>No.66</td></tr>
<tr><td>9</td><td>No.25</td><td>ト長調音階</td></tr>
<tr><td>10</td><td>No.27</td><td>No.72</td></tr>
<tr><td>11</td><td>No.29</td><td>No.73</td></tr>
<tr><td>12</td><td>No.31</td><td>No.76</td></tr>
<tr><td>13</td><td>No.35</td><td>No.77</td></tr>
<tr><td>14</td><td>No.46</td><td>No.88</td></tr>
<tr><td>15</td><td></td><td>ヘ長調音階</td></tr>
<tr><td>16</td><td></td><td>No.96</td></tr>
</table>

3・3　保育現場のニーズに応える「弾き歌い」実技指導

保育現場で、より実践的に必要とされるのが弾き歌い能力である。1 年生後期の「音楽Ⅱ」（1 単位・幼稚園教諭、保育士必修）と、2 年生前期の「音楽Ⅳ」（1 単位・幼稚園教諭必修）の授業では季節の歌、生活の歌から課題曲を定め（**表 3**）、それらの習得を目標としている。

課題曲は過去 4 年間の学生の教育実習先での使用曲の報告及び、本学付属幼稚園への聞き取りから、保育現場で実際に使用されることの多い以下の楽曲に定めている。

表 3 「音楽Ⅱ」「音楽Ⅳ」引き歌い課題曲一覧

<table>
<tr><th>「音楽Ⅱ」課題曲</th><th>バイエル、グレードとの対応</th><th>「音楽Ⅳ」課題曲</th><th>バイエル、グレードとの対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2">おおきなくりの木の下で
とんぼのめがね
どんぐりころころ
たきび
まめまき</td><td rowspan="2">No.73 程度
グレードⅡ</td><td>とけいのうた
しゃぼんだま</td><td>No.73 程度
グレードⅡ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">あめふりくまのこ
あめふり
かたつむり
はをみがきましょう</td><td rowspan="2">No.88 程度
グレードⅡ</td></tr>
<tr><td>あさのうた
（詞：増子とし、曲：本多鉄麿）
おかえりのうた
（詞：天野蝶、詞：一宮道子）
おべんとう
やきいもグーチーパー</td><td>No.88 程度
グレードⅡ</td></tr>
<tr><td>とんでったバナナ
ありさんのお話
バスごっこ</td><td>No.102 程度
グレードⅢ</td></tr>
</table>

（**表 3**）からわかるように、「音楽Ⅱ」の課題曲を演奏するためにはグレードⅡまでを終了しておくことが必要である。しかし「音楽Ⅱ」を履修する際に、初心者の多くはグレードⅠまでしか終了していないために、課題曲の奏法などに戸惑う場合がある。この点を改善するために、後述する平成31年度からの新教育課程では「音楽演習Ⅰ（ピアノ基礎）」「音楽演習Ⅱ（ピアノ演奏）」終了後に「音楽演習Ⅲ・Ⅳ（弾き歌い）」を履修するように変更している。

そこで、使用する楽譜は個々の技量に合わせ編曲した「習熟度別伴奏譜」を作成している。詳しくは３・４「弾き歌い習熟度別伴奏譜」で述べるが、１曲に付き３種類の楽譜を配布し、学生は各自のレベルに合った楽譜を選択し練習に取り組んでいる。

なお、調性は「ありさんのお話」「バスごっこ」の２曲のみがヘ長調で、その他は演奏しやすいハ長調をから始め、余裕のある学生はニ長調などの原調に取り組む。

また、定期的に実技テストを行い、常日頃の練習習慣を身につけるよう促している。実技テストでは３種類の楽譜のどれを使用しても良い。

３・４　弾き歌い習熟度別伴奏譜

ピアノ初心者に限らず、経験者でも歌いながらのピアノ伴奏は難しい。そのような学生への対応として、弾き歌いに使用する楽譜は一般的な伴奏譜を「上級」とし、その他に個々の技量に合わせ編曲した「中級版」「初級版」を著者が作成している。

「中級版」「初級版」の作成にあたっては、保育現場での演奏を前提としており、

①右手パートは歌の主旋律を弾き、運指番号も全て記入済みであるもの（中級、初級）

②左手パートが三和音を中心とした分散和音を使用したもの（中級）

③左手パートが単音で簡易なリズム、場合によってはベース音のみ（初級）

で、なおかつ響きや音型が不自然でなく、初級から中級、上級へとステップアップしやすい編曲を心掛けている。また、歌い出しの部分には「さんはい」という予備の掛け声を記入している。

学生の３種類の楽譜の選択状況を見ると、半数以上が「中級版」を選び練習をしており、「自分の力に合った楽譜を選べるので練習しやすい」「中級が弾けるようになったので上級に挑戦する」「初心者でも弾けて楽しい」などの感想から、練習へのモチベーションを保ち、意欲を高めていく効果があると考える。今後もこのような習熟度別伴奏譜の作成を目指したい。

３・５　弾き歌い発表会

「音楽Ⅳ」の授業内において、初めての幼稚園教育実習前（２年生の６月）に班ごとによる弾き歌い発表会を行っている。５～６人の班を作り、一人が先生役で弾き歌いの伴奏をし、班員は園児役で歌を歌う。それを全員に先生役が廻るようローテーションをし、ステージ上で発

写真１　弾き歌い発表会の様子

表する（**写真 1**）。他の班はその演奏を鑑賞し「技術力」「表現力」「団結力」の観点から評価をする。

保育現場での演奏に備えての度胸試しであるが、人前での演奏の緊張感、班内での相互援助、歌唱指導のシミュレーションを経験する機会となっており、苦手意識を持つ学生も励まし合いによってそれを克服し、得意な学生も各々の今後の課題を発見している。

3・6　実習における音楽表現活動

平成 30 年度における学生の実習先での音楽表現活動の実施状況を、実習後にアンケートを取ったところ、（**表 4**）のような結果が出た。ピアノ演奏に関しては幼稚園教育実習では半数以上が行っているのに対し、保育所保育実習では 3 割に満たない結果であった。ピアノ演奏以外の業務が多いことが理由かもしれないが、実習生の積極的なピアノ演奏への取り組みが望まれる。また、手遊びはほぼ全ての学生が行っているのに対し、リトミックは約 1 割しか行っていないことに対しても同様に、実習での設定保育の内容も充実させていかなくてはならない。

表 4　実習中に行った音楽表現活動

音楽表現活動	幼稚園教育実習	保育所保育実習	合計
ピアノ演奏	61%	28%	44%
手遊び	100%	95%	97%
リトミック	13%	10%	12%

4. 個別のピアノ実技指導

4・1　学生のピアノ経験

本学の幼稚園教諭・保育士資格取得を目指す学生（平成27年度～28年度入学生）において、ピアノ初心者22%、１年未満の経験者29%、１年以上の経験者49%という割合である。なお、１年未満の経験者は全て保育学科への進路決定後に個人レッスンを始めた学生、あるいは本学での入学予定者に対する入学前ピアノ実技レッスンを受講した学生であるため、初心者として捉えている。

4・2　初心者への実技指導

短期大学課程２年間で保育現場に通用する技術を身につけるための個人、グループレッスンを行っている。週１回90分間の授業で教員１人あたり６名～８名程度の学生を指導していくが、教員数と施設数の関係で三通りの授業方法をローテーションで進めている。

【授業方法①】個人レッスン室で各自練習し、教員がレッスン室をまわり指導を行う（**写真2, 3**）。

写真２　個人レッスン室

写真３　実技指導の様子

【授業方法②】電子キーボードを並べた教室で各自練習し、同室のグランドピアノで個人指導を行う。保育現場でのグランドピアノの演奏を想定している（**写真4**）。

写真 4　グランドピアノ、電子キーボードでのグループレッスン

【授業方法③】電子キーボードを並べた教室で各自練習し、同室のアップライトピアノで個人指導を行う（写真 5）。

写真 5　アップライトピアノと電子キーボードでのグループレッスン

授業方法②と③はグループレッスンであり、指導を受ける学生は他学生の前で弾くことになるが、人前で演奏することの訓練にもなり、人目を意識することで練習意欲にも繋がる。

初心者の指定教科書として「標準バイエル・ピアノ教則本」（以下、バイエル教則本）を用いている。選定理由は

○ピアノ初心者用のエチュードとして一般的に長年親しまれており、楽譜も手に入りやすく経済的である点。

○右手がメロディー、左手が伴奏という弾き歌いの伴奏スタイルに移行しやすい点が挙げられる。

楽曲数は 106 曲であるが、保育を目指す学生にとって、全てをマスターするには時間的余裕はなく、その必要もないと考える。類似した楽曲、弾き歌い伴奏には不要なテクニックを用いる楽曲などは省略し、グレードⅠ、グレードⅡでは課題曲を全 30 曲に絞り、練習に取り組んでいく（表 5）。

表５　グレードⅠ、グレードⅡ課題曲一覧

グレードⅠ			グレードⅡ		
楽曲番号	バイエル番号	練習内容と指導のポイント	楽曲番号	バイエル番号	練習内容と指導のポイント
1	No.7	指の位置の練習	15	No.48	付点のリズムの練習
2	No.11	拍の長さの練習	16	No.49	３拍子の主要三和音の練習
3	No.12	右手の練習	17	No.51	右手のポジションの練習
4	No.13	左手の練習	18	No.52	6/8 拍子の練習
5	No.15	両手の練習①	19	No.55	ヘ音記号の練習
6	No.18	３拍子の練習①	20	ハ調長音階	ハ長調の音階の練習①
7	No.21	伴奏の練習①	21	No.65	ハ長調の音階の練習②
8	No.23	両手の練習②	22	No.66	6/8 拍子の主要三和音の練習
9	No.25	３拍子の練習②	23	ト調長音階	ト長調の音階の練習
10	No.27	両手の練習③	24	No.72	ト長調の練習・３度の練習①
11	No.29	タイの練習	25	No.73	臨時記号の練習①・３度の練習②
12	No.31	伴奏の練習②	26	No.76	３度の練習③
13	No.35	左手のポジションの練習	27	No.77	臨時記号の練習②
14	No.46	８分音符の練習	28	No.88	16 分音符の練習
			29	ヘ調長音階	ヘ長調の音階の練習
			30	No.96	3/8 拍子の練習

４・３　課題曲の分析と指導のポイント

「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」の授業計 30 回で課題曲 30 曲に取り組むが、過去２年間の初心者 17 名の進度を解析したところ、幾つかの課題曲に時間を多く割いている学生が多いことに気づいた。楽曲番号 14（バイエル No.46）、楽曲番号 19（バイエル No.55）、楽曲番号 24（バイエル No.72）、楽曲番号 25（バイエル No.73）である。

（**表６**）は典型的な初心者学生５名を抽出したグラフである。学生Ａは 19 回で、学生Ｂは 24 回、学生Ｃは 30 回で 30 曲を終了したが、学生ＤとＥは残念ながら終了出来なかった。

以下それぞれの楽曲について、その理由を探っていく。

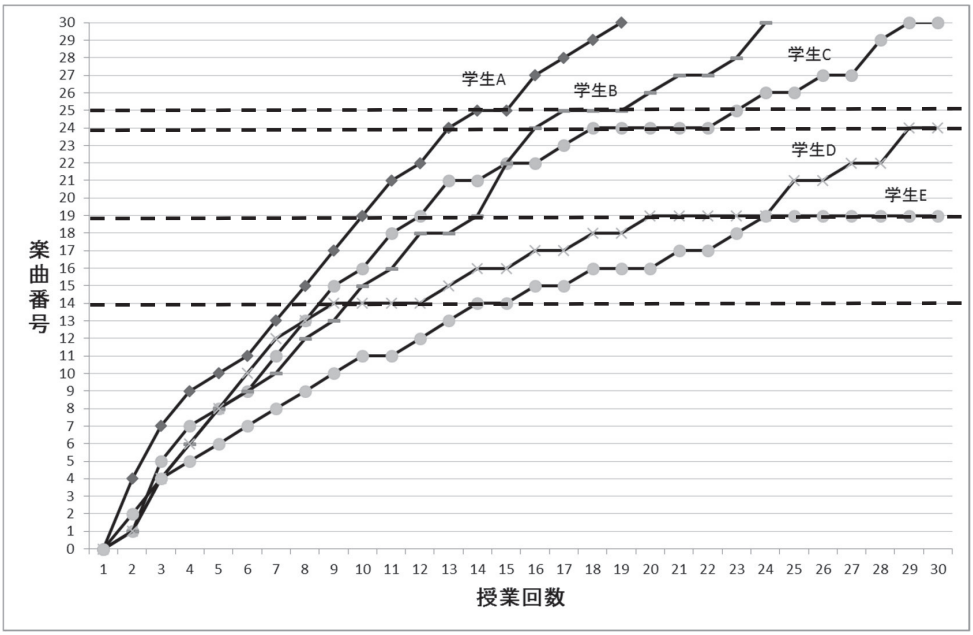
【楽曲番号 14（バイエル No.46）】

それまでの課題曲にはなかった８分音符が現れており、かつグレードⅠの最終曲で試験課題曲ということで授業回数を重ねていると思われる。この楽曲の前に８分音符を使用した課題曲を設定する必要がある。

【楽曲番号 19（バイエル No.55）】

最初は両手共にト音譜表であるが、４～６小節、16 ～ 18 小節の左手がヘ音譜表になって

表 6　ピアノ初心者学生の授業進度



いる。いきなり、しかも部分的に現れたヘ音記号に戸惑い、対応に時間がかかっている。バイエル教則本自体も No.54 から突如ヘ音記号が使用され（連弾セコンダパートを除く）対応に苦慮するところである。

【楽曲番号 24（バイエル No.72)】

ト長調の音階の後に取り組む楽曲であるが、ファ＃の調号への対応や 3 度音程の和音が両手に現れ、初心者にとっては困難な奏法であるため時間がかかると考える。この近辺のト長調の楽曲（No.70、No.71、No.72、No.73、No.76）には何故か 3 度音程の和音が多用されており、保育現場での歌の伴奏にはあまり用いられないため、容易なト長調の練習曲の設定をする必要がある。

【楽曲番号 25（バイエル No.73)】

それまでの楽曲は、同じ音型の繰り返しによるものが多かったが、この楽曲は次々と新しい音型が現れる。また、初めてシャープの臨時記号が現れ（6 小節)、ナチュラルの出現とともに半音階的に使用され（7 小節)、後半では左手パートにもシャープ（9 小節)、フラット（13 小節）が現れる。更には先程述べた 3 度音程の和音も弾かなければならない。

4・4　自主練習への個別・具体的な支援

週 1 回の授業でのレッスンだけではなく、当然普段の自主練習も必要であるが、初心者は練習の仕方自体が分からず、最初から最後までを間違えながら、ただひたすらに弾くだけの非効

率的な練習をしている場合がある。間違えるための練習のような状態が続くと倦怠感と失望感を持ち、継続するためのモチベーションが失われていく。そのため、練習方法の指導が必要になってくる。1小節毎、2小節や4小節毎の部分的な反復練習により習得した部分を繋げて、最終的に1つの楽曲になっていく作業を行わなくてはならない。その過程の中で、次第に指が思い通りに動いていく感覚を身に着け、達成感と喜びを持てるまで、場合によってはスポーツトレーナーのように練習に寄り添い、励ましていく精神的なサポートも必要である。

（**表5**）において一番進度の速い学生Ａは19回目の授業でグレード１の課題を修了しており、毎回１曲から２曲の課題曲をこなしている。この学生は全くの初心者であるが、毎日の自主練習を欠かさずに行なっており、着実な上達がみられる。日々の自主練習が如何に大切かわかる。

また、課題曲を修了できなかった学生Ｄ、Ｅのようなケースが７名いたが、試験前の補習により修了した者が２名、２年生での再履修によって修了した者が４名、残念ながら幼稚園免許取得を諦めた者が２名である。

修了出来なかった理由としては、授業の欠席数が多い、自主練習ゼロの週が多い、技術習得まで時間がかかる、などにより達成感を持つまでの集中力を継続することが出来なかったことが挙げられる。

自主練習の一助となるものとして学生が求めるものが、動画での楽曲の確認、理解である。楽譜の読み取りが苦手な初心者にとって、視聴覚的な教材として、動画で感覚的に楽曲を捉え、再現していく方が容易な場合がある。今現在、インターネット上の動画配信サイトなどでバイエルのお手本映像がいくつも上げられているが、いずれもテンポが早く手本にならないものが多いため、学生のレベルに合ったテンポで手本を弾き、撮影し、自主練習の際に確認できるようにしている。学生に一番身近なスマートフォンによって、自主練習への動機付けになって欲しいが、動画に頼りきりで楽譜から離れてしまわないような指導も心がけたい。

5. 今後の課題

課題曲の設定については、ヘ音譜表への対応のため、早い時期からヘ音記号を用いたものに編曲をする必要がある。また、調号・臨時記号への対応のためにト長調の楽曲の編曲や設定の見直しをしたい。さらに、子どもの声域に合わせ、童謡によく使用されるのがニ長調であるが、バイエル教則本には適した楽曲が少ないため新たに作成する必要がある。以上のようにバイエル教則本はピアニストの基礎を身に付ける教則本であるため、保育者を目指す学生にとっては不要な部分、不足する部分が見受けられるため、修正を加え改善したものを作成していきたい。

そして、最終的には主要三和音やコード譜による即興的な伴奏付けに繋がるよう、和声的知識の習得を目指したい。

また、自主練習への動機付けとして、個別にスマートフォンでの動画撮影による楽曲理解を試みているが、今後は本学ホームページからの動画、楽譜ダウンロードや、遠隔指導などICTを活用した方法を模索したい。

学生にとっては1年生後期にピアノ実技指導の「音楽Ⅲ」と弾き歌い指導の「音楽Ⅱ」が同時期に開講され、課題曲が増えるため、前期に比べると実技練習に苦労する学生が増えていた。そのような状況から平成31年度以後の新教育課程（**表7**）では2年間の開講時期を整理し、改善している。

表7　平成31年度以後の新教育課程

科目		開講時期	単位数	幼稚園教免	保育士資格
保育に関する科目	音楽演習Ⅰ（ピアノ基礎）	1年前期	選択1	必修	必修
	音楽演習Ⅱ（ピアノ演奏）	1年後期	選択1	必修	必修
	音楽演習Ⅲ（弾き歌い）	2年前期	選択1	必修	必修
	音楽演習Ⅳ（弾き歌い）	2年後期	選択1	必修	選択
教職に関する科目	幼児と音楽表現	1年後期	選択1	必修	必修
	保育内容「表現」の指導法	2年前期	選択1	選択	選択

6. おわりに

昨今の幼稚園教諭・保育士不足により、社会からのニーズも多い中で、ピアノが弾けないことを理由に保育者への道を諦めないで欲しいという思いでピアノ初心者指導に取り組んでいる。1年生ではやらされている感のある学生も、2年生での実習経験を重ねる間にピアノに対する意識も変わっていくように思う。1年生でピアノの基礎を身につけ、2年間での弾き歌いの伴奏技術を習得し現場で即戦力になれるように、より実践的な実技指導を行なっていきたい。

参考文献

1）文部科学省・厚生労働省・内閣府「幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領」チャイルド本社 2017
2）F. バイエル「標準バイエル・ピアノ教則本」全音楽譜出版社
3）北村智恵　校訂・解説「ブルクミュラー25の練習曲 op.100」全音楽譜出版社
4）全音出版部編「ソナチネアルバムⅠ」全音楽譜出版社